「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

今日の講演を聞いて、色んなことに興味や感心を持つことが大切だなと思いました。また、新聞記者の人たちは毎日忙しいスケジュールで生活して、色んな状況の場所に行き、話を聞いたりしていて、毎日の新聞は多くの人の努力から出来ていると改めて知れて良かったです。自分が記事に書く内容がそのまま社会に発信されることは、とても責任が必要で、重要な仕事だと思います。でも、この仕事がなければ、ネットニュースや、テレビの情報だけしかないので、どの内容を信用すれば良いのかわからなくなってしまうと思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

今まで新聞記者は、自分の専門の文野についてのみ取材していると思っていたけれど、様々なジャンルの記事を書いていると知り、とても驚いた。私の家も読売新聞をとっているが、読むのは編集手帳や日曜日の「よみほっと」だけだった。今回の話を聞いて、特に文化の記事が気になったので、また読んでみようと思った。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞記者は特定の決まった記事を書くものだと思っていたけど、幅広い分野の記事を書くことに驚きました。普段何気なく見ているけと、1つの記事には何百人もの人たちが関わってつくられていると思うと感動しました。私はあまり新聞を読まないのですが、新聞小説やマンガなどもあると知り、おもしろそうだなと思いました。新聞記者の方と同じように、私たちも、これからいろんなこと(に関心を持って経験して、次に生かしていくことが大切だと思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

僕は、新聞に触れたことがあまりなく、まして新聞記者に関しては、何も知らなかったし、興味もありませんでした。ところが、今日の講演を聞いて、新聞記者の仕事って、想像の何十倍以上も激動で、ものすごく大変と知り、驚きました。そして、1つの新聞を作るために、すごく多い数の記者が必要と知ったときは、なおさら驚きました。これから、記者たちが頑張って書いてくれた記事を、少しでも読んでみようと思います。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

僕の家は、新聞をとっています。なので、毎日、朝ごはんを食べながら新聞を読んでいます。ですが、いつも、なかなか書いていることが理解できないことや、難しそうな記事は、とばして、読んでいませんでした。ただ、今日の、早川さんのお話を聞いて、新聞は、5W1Hで書かれていることや、難しい単語などは、ちゃんと注意書きをしていることを知って、とても、新聞が読みたくなってきました。明日からも、新聞の構成をしっかり見ながら、新聞を読んでいきたいです。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞を作る際、災害などの時、30分～1時間で記事をネットにあげるのはとても速くすごいなぁと思いました。ただ、転勤がとても多く大変そうだなぁと思いました。新聞は最近読んでいませんでしたが、スポーツ面やコラムだけでも見るようにして、少しずつ新聞を読むことを習慣づけていきたいと思います。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞は日常生活の中であまり見たりは今まではなかったけど、今回の話を聞いて、1つの新聞の記事にもいろいろな物語があって、その記事ができあがっていると知って、これからは少し新聞を見てみようかなと興味がわきました。面白い記事をさがしてみるのもいいなと思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞記者の仕事について聞く事は今までなかったので、とても良いお話を聞けて良かったです。記者の人たちが、直接取材したり、記事をかいたり、確認作業をしたり、と、毎日の新聞はたくさんの人と時間をかけて、作られている事を知りました。また、取材していく中で、今現在の常識や歴史が変わっていく事もあるという事を知り、おどろきました。新聞は私自身、今まであまり読む事がなかったので、新聞に興味をもてたので良かったです。私も社会の現状に目を向けてみようと思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞記者の人の話を直接聞けることはめったにないと思うので良い経験になったなと思いました。新聞記者の仕事というのは結構しんどいものなんだというのが分かりました。休みの日でも急に呼ばれて行かなければならないというのは僕は無理だなと思いました。でもこの仕事は社会を変えれるのはすごい仕事だなと思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

自分達が何気に見ている新聞の裏にはたくさんの工程があり、興味をもちました。早川さんが言っていたように興味がないと何事も深入りすることができないなと思いました。新聞を読むことは時事を知ることができたり最終的には自分の大学入試に繋がっていくと思うのでこれから毎朝新聞を読む習慣をつけたいと思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

私の家は新聞をとっていないので新聞記事に触れる機会は少ないのですが、よくインターネットでニュース記事等を読んでいます。しかしそれらの記事がどのようにつくられているか全く知らなかったので新聞記者の方の視点から貴重なお話を聞くことができ良かったです。早川さんのお話を聞いて、あまり興味をもてないことや、自分には必要ないと思ってしまうようなことでも、未来の自分のために多くのことを学んでいきたいと思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

今回の話を聞いて最も驚いたことは、播磨地域にいる新聞記者が6人しかいないことです。新聞記者というのは、1つの地域に何十人もいるイメージだったのですが、全体の新聞記者ではなく1つの会社の新聞記者だとしても、少ないな、という印象です。記者をしている長さによって、書く記事のジャンルが異なることは、初めて知ったので、面白いな、と思いました。個人的に、記事を書き始めてからの期間が短い人ほど記事を書きやすいジャンルになるようになっているのではないかと思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

私は新聞は普段読まないので新聞についてあまり興味はなかったけれど、講演をきき、多くの人によって、何時間、何日もかけてかかれる記事があるとも思い、これからは、少しでも読んでみようと思いました。新聞といえば前日におこった事件などのニュースだけだと思っていたけれど、文化や歴史などの記事があることがわかりました。また、新聞は影響力が大きいので誤った情報をながさないようにしなければいけないということがわかりました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞を読む機会があまりないのですが、今日のお話を聴いて興味が湧きました。小さい文字が羅列してるだけの白黒の紙にたくさんの人の努力と時間がつぎ込まれているのだと分かりました。何故新聞社は日本に多く存在しているのか考えたことがあります。早川さんがおっしゃっていたように、新聞は社会に大きな影響を与える力があると思います。私はその実体験を知って、世界を変えることができる仕事はとても素晴らしいのだと実感しました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

正直今まで新聞に興味を持つことがなく、ほとんど読んだことがありませんでしたが、今回の講演を聞いて新聞に興味をもつことができ、また読んでみようと思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

正直今までは新聞なんかもうふるいよなとか思ってたけど、もちろん新聞のすごさも知ることができたけどなにより新聞記者の仕事なんかおもしろそうかなって思ってきてて いろいろな所に話しを聞きに行くことができるし、それは、自分にとって好きなことなのか、好きなことではないのかは、わからなくても、もっと好きになったり新らしい発見になったりするのではないのかなと思いました。本当に新聞に対しての見方が変化するきっかけになたなと思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

「新聞記者」の仕事について今まで考えたことがなかったけど、今日の話を聞いて大変そうだなぁと思ったのと自分自身が成長できそうだなと思いました。早川さんは12回転勤したとおっしゃってて、取材する担当も色々なので取材で聴くだけではなく自分で調べることが大切なんだろうなと思いました。それはすごく大変なことだと思うけど、色々な分野に触れることで色々な知識がどんどん増えていって成長していけそうだと思いました。また、「新聞記者」はふつうの「記者」とちがって記事も書くので聴いたことを文章にする力も必要なのですごいなと思いました。私は記述などが苦手なので新聞をたくさん読んで力をつけたいです。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

早川さんの講演を聞いて思ったことが3つあります。まず、1つめはいつの時代になっても新聞は必要だということです。なぜなら、テレビやラジオにない紙を使っているからこそのよさが新聞にはあり、その良さはいつの時代でも必要になると思ったからです。2つ目は、新聞はたくさんの手になってきているということです。質問の解答でもあったように、関西地方だけでも500人くらい、全国となると、とてもいっぱいいるといってたのでそれだけ手がくわわっているからこそ今の時代でもあいされているのだろうと思いました。最後に、僕も新聞をよんでみようということです。なぜなら、新聞にはいろいろな情報がつめこまれており、僕たちの知識になるからです。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

今まで新聞を読んだことがなかった。文章を読むのが嫌いだし、政治、経済とか難しいイメージだからあまり読みたくないと思ってたけど、面白そうな話題だけでも、読んでみたいなという気にちょっとなった。新聞はなんであんなに早く作ることができるんだろうと思っていたけど、宿直したりして大変だなと思った。さいごに後悔しないようにいろんなことをしたほうがいいとおっしゃっていて経験談から基づいて説得力があったので確かにそうだなと激しく思った。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

今までの新聞記者のイメージでは、ブラックな所に勤めていて、雰囲気が重々しく、がりがり、ピコピコ書いたり、パソコンに入力しているような様子を思い浮かべていましたが、今日の講演で103歳のかぐや姫がいたり、広島の洪水で新ビルの皮ぐつが死んでしまった少し笑ってしまうようなエピソードを聞いて、イメージが大きく変わりました。新聞記者になることに興味がなかったけど、自分の専門分野について記事を書くことができるのは、仕事を楽しめて、良いなと思いました。仕事はブラックだろうけど、有名人に会えるかもしれないので、少し興味を持ちました。